

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 2月 21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102769		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい矢野		
所在地	広島市安芸郡矢野西5丁目18-30 082-889-6400		
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3470102769-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年2月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>日課やレクリエーション、散歩を続けることで、メリハリのある毎日を過ごして頂き、利用者様同士の交流で、明るい談話や楽しい雰囲気ホーム内にあるように努めている。表情や小さな変化に気を配り、体調の変化を見落とさないようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>平成14年4月開設の事業所である。事業所の近隣は閑静な住宅街の中にあり、非常に静かな環境にあるばかりでなく、近所の神社や近くの小川沿いには桜並木があり、隣の駐車場にはイチジクの木もあるなど、気持ちよく散歩ができる環境にある。また、JRの駅も近く交通至便であり、ショッピングセンターも近くにあり、利用者と一緒に買い物に出かけるなどしている。</p> <p>事業所は民家を改造した周囲に溶け込んだたたずまいであり、定員も6名と小規模であるほか、「寿を祝う会」という、利用者個別のファイルを作って、家族に渡すなど、利用者や家族、職員とが密接した関係にあり、利用者も落ち着いて過ごしやすい事業所である。</p> <p>日々のレクリエーションや散歩などの日課を通し、利用者同士も相互に交流し、明るい雰囲気の事業所である。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設当初からの法人の理念があり、その理念を毎日唱和するとともに、互礼会にて、各事業所の目標をたて、実践に毎日取り組んでいる。	法人の理念を事業所内に掲示しているほか、事業所独自の理念も作成しており、明るく楽しく利用者に過ごしてもらおうという長期目標と、作業や散歩を毎日続けようという短期目標も立てている。目標は、職員が意見を出し合って、事業所として取りまとめて、法人全体でも共有されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、回覧板のやり取りや、総会に出席したり、公園の掃除に出かけている。散歩時には挨拶を交わし、交流を心掛けている。	町内会に加入しており、町内清掃や総会に出席し、回覧板もまわしてもらっている。運営推進会議に町内会役員の出席もあり、祭りや子ども神輿など、地域行事に関する情報提供を受けている。また、日頃から近隣への挨拶を心掛けるなど、事業所が地域の一員として、日常的に交流するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	総会などで質問を受けた時などに、お話ししている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の活動内容を報告している。その時期に応じて気をつけたいことや、行事などを教えて頂いている。	運営推進会議は日曜日に開催するなど、地域住民や家族が参加しやすいよう配慮している。会議では、暑い時期には脱水、寒い時期にはノロウイルス対策など、利用者の体調面に配慮するような内容が話し合われている。	福祉の動向や、より幅広い視点からの事業所運営に関する意見を聞くため、地域包括支援センターにも参加してもらうため、日程を工夫するなどにより、会議をよりサービス向上に活かしてもらうことが期待される。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の受診時には、連絡して状態を伝えている。2ユニット化に向けて、代表者と市担当者との連絡を行っている。	行政の担当者とは、法人代表者を通じて連携をとっている。事業所の様子を法人代表者と情報共有することで、市担当者と適切な協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束排除宣言を掲げ、取り組んでいる。食事用のエプロンや「待って」の言葉がけも、身体拘束ととらえ、対応を工夫している。</p>	<p>身体拘束排除のための社内研修を行っており、事業所の管理者はリーダー研修によって、法人内の他の管理者と交流や意見交換をすることにより、法人全体で意識付けを行っている。事業所内では、言葉での拘束を含め、身体拘束は行われていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>毎年、社内研修で虐待防止について学んでいる。日々の生活のなかでも、職員同士がお互い注意を払い、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内研修で学ぶ機会を持っている。必要がある場合には、施設代表者に相談し、制度の利用につなげている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書をもとに、利用者や家族にお話ししている。不安や疑問がある場合は、その都度お話し、納得して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>行事や面会時に意見や要望を、お聞きしている。直接、施設代表者に電話をされる場合もある。管理者会議で報告、検討し、対応している。</p>	<p>利用者の家族からの意見聴取は、日頃の面会時や行事において行っており、話の内容によって、直接法人代表者に電話連絡が行われる場合もある。管理者会議で報告、検討し対応がなされ、事業所運営に反映がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやミーティングで、職員からの意見を聞いている。管理者会議で検討し、運営に反映させている。	事業所内ミーティングで出た内容を、法人内の管理者会議で議題に挙げ、法人代表者も把握している。職員の運営や人員に関する要望や、必要物品の要望など、詳細な意見を聞く機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	申し送りや事業所を訪問することにより、把握に努めている。面接や電話相談などを受け、少しでも良い環境で働けるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修を定期的に行っている。社外研修を希望する場合には、勤務の調整を行い、研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の同業者同士の交流会や研修、勉強会に参加し、ネットワークづくりや技術の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面接時に本人にお話を伺い、不安や心配事をお聞きしている。安心感を持っていただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面接時に家族より、不安なことや心配事をお聞きしている。その後もいつでも、連絡を受け相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接時にお話を聞き、その方にとってまず必要なサービスは何かを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に調理や掃除、洗濯を行いながら、共に生活していることを忘れず、言葉かけや対応を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と相談をしながら、利用者様にとって一番良い方法で対応できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望があれば、馴染みの美容院や病院へお連れしている。家族や親せきの方が来られた時には、お部屋でゆっくりお話しして頂けるよう配慮している。	利用者の日頃の様子を、事業所から家族へ手紙を通じて伝えている。家族から返事が来ることもあり、利用者本人のなじみの関係を継続する支援が行われている。また、なじみの美容院や病院に出かけられるよう配慮するなど、本人のこれまでの関係が途切れないような支援もなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合わない利用者様同士は、職員が間に入ることで、よい状態に関わりあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も電話やお手紙で、ご様子をお知らせいただいている方もいる。相談時には、できる限りの支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前面接や入居時、入居後に情報を収集し、暮らし方の希望や把握に努めている。ご本人から聞けない時には、表情や声、体の動き、経歴等から、把握に努め検討している。	利用開始前の聞き取りや情報収集により、利用者の思いや意向の把握につとめているほか、例えば肉類は苦手などの食事の好みに関する対応などにも対応している。思いを言いにくい利用者に配慮し、表情や声、しぐさや生活歴などから把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前面接で、暮らし方の把握に努めている。入居後もお話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前面接で、本人や家族から情報を収集し、入居後は共に生活する中で、その方の現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>情報提供書や面接時にお話しを伺い、必要時医師とも相談しながら、介護計画を作成している。</p>	<p>本人の課題について、ケアマネジャーを中心に、利用開始時の情報提供書や面接時の聞き取りを参考に、介護計画を作成している。介護計画は職員から利用者に関する情報をケアマネジャーと情報共有することにより、現状に即した内容の作成へとつながっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活日誌に様子や気づきを記録し、職員間で情報を共有し、計画の見直しに役立っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入院時には、洗濯物を取りに行ったり、面会に行くなどしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近所の公園やスーパーに散歩や買い物に出かけている。秋祭りなどにも、楽しみに出かけている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望があれば、希望される医師にかかっている。特にない場合はホームドクターをお願いしている。定期的に往診して頂き、必要時には総合病院へ紹介して頂いている。</p>	<p>協力医による訪問診療が二週間に1回行われており、必要に応じ総合病院への入院紹介をしてもらうなど、利用者が適切な医療を受けられるような支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は、いつもと違う様子があるときには、すぐ看護師に報告、相談し、対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には付添、介護情報提供書を渡している。入院後は面会に行き、洗濯物の入れ替えをし、状態を聞きながら、早期退院ができる様に、働きかけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した場合の希望をお聞きしている。実際の時には、本人、家族と話し合い、医師や看護師とも相談し、支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用時に、重度化した場合の対応について説明を行っているほか、実際に重度化した場合には、医師、法人代表者、家族も含めた話し合いが行われ、看取りも踏まえた対応を行っている。実際に看取り事例もあり、利用者が安心して最後まで生活できるよう、支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>社内研修で、事故時や急変時の対応について学んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の避難訓練を行っている。災害時用の飲料水を常備し、地震や水害時の避難について話し合っている。</p>	<p>消防署からの指導も受けながら避難訓練を行っており、避難経路の確認やハザードマップの把握、他の事業所職員も含めて、すぐに駆け付けられるよう、法人内の連絡体制も敷いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	大きい声でトイレ誘導の声掛けをせず、近くでそっと伝える等配慮している。苗字や名前呼び、丁寧に対応するようにしている。	例えば、トイレ誘導の際の職員の声掛け方法など、一人ひとりの人格を尊重した対応になっているかどうか、管理者が常に目を配らせ、その場で注意するなどの対応がなされ、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食べたいものや飲みたいものなど、本人に選択して頂くようにしている。着たい服なども本人に聞きながら、一緒に選んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームの一日の流れは決まっているが、その中でも、一人ひとりのペースに合わせた食事時間や活動時間を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時にはお化粧品やスカーフ、ブローチ、スーツなどで、おしゃれを楽しんで頂いている。男性は毎日、髭剃りをし、身だしなみに気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段から一緒に食事の準備をしている。お誕生日には好みの献立でお祝いをしている。おやつも手作りを心掛けている。	食事は利用者と一緒に準備しており、例えば、一緒にビニール手袋をはめてコロッケづくりを行うなど、楽しみながら行っている。食材は宅配を利用し、時間の効率化を図っているほか、利用者と一緒に買い出しに出かける日を作るなど、楽しんで食事の準備ができるような配慮をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	生活日誌に、摂取量や水分を記入し、把握に努めている。体調に合わせて捕食や代替をしている。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	毎食後、口腔ケアを行っている。自分のできる方は見守りし、仕上げは職員が行い、口腔内の状態を観察している。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	ベットサイドにポータブルトイレを設置したり、定期的に声掛けや誘導をすることにより、トイレでの排泄を心掛けている。	排泄チェック表を使用し、適宜、声かけをしているほか、必要に応じポータブルトイレやリハビリパンツを使用し、可能な限り、排泄の自立に向けた取り組みが行われている。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	研修で便秘について学び、理解している。毎日、排便チェックし、量や性状も記入している。便秘の方には、早朝に牛乳や水を摂取して頂いたり、緩下剤を服用して頂いている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	午後より入浴し、最低でも週3回は入っていただいている。菖蒲湯や柚子湯なども楽しんで頂いている。	週に3回は入浴することができ、声かけやタイミングをみながら、入浴してもらっている。しょうぶ湯やゆず湯など、季節に応じたお風呂も工夫し、楽しみながら入浴できるような支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食後臥床し、休息して頂く方もある。シーツ交換や布団を干し、気持ちよく眠れるよう、室温などにも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	生活日誌にお薬の効能書きを綴じ、いつでも読めるようにしている。お薬は職員が管理し、その都度手渡し、服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや洗濯、掃除、物づくり、散歩など、それぞれ得意なことやできる事をしながら、役割を持った生活をして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候や体調に合わせ、毎日、散歩に出かけている。町内会の盆踊りや秋祭りなどに出かけ、楽しんでいただいている。	一人ひとりの体調や天候に応じて、毎日の散歩に出かけているほか、秋まつりなどの地域行事への参加や車で外出を行い、近くのショッピングセンターに出かけるなど、本人の希望や状態に応じた外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望時、預り金として預かる場合もある。買い物時には、そのお金で本人に買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけた時、受ける時は子機を使用し、プライバシーに配慮している。手紙を書きたい希望があれば、投函の手伝いをしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の壁画や花を飾り、季節を感じて頂けるよう努力している。排泄後は換気や消臭剤を使用し、不快感の軽減に努めている。	季節の花を飾ったりしているが、リビングなど共有空間は、あまり飾りすぎないように心掛け、落ち着いた雰囲気づくりに心掛けている。テーブルも天然木を使用した温もりのある素材を使用しているほか、暖かい日には戸外にテーブルを出して、くつろぐなど、快適に感じられる工夫に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやテーブルで話をしたり、テレビを見たり、一人でくつろがれたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には自宅で使用されていた馴染みの家具や仏壇、写真、人形など持ち込んで頂き、居心地の良い居室づくりに努めている。	居室は和室を中心とした落ち着いた空間であり、原則、自由にものを持ち込むことができ、仏壇を置き、毎日、花の水替えを行うなど、利用者が落ち着いて過ごせるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差の解消に努め、階段はすべり止めマットを敷き、手すりを取り付けている。トイレは手すりを取り付け、自力での立ち上がりを支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい矢野

作成日 平成29年4月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加者に片寄りがある	より幅広い視点からの意見を聞くことができるよう地域包括にも参加して頂く	日程を調整する	6ヶ月
2	35	災害時の避難対策が具体化されていない	災害時、安全な避難	具体的なマニュアルを作成する 避難訓練をする	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。